



# 令和4年度全国高等学校総合体育大会 躍動の青い力 四国総体 2022 の開催について



「躍動の青い力 四国総体 2022」のスローガンの下、四国4県と和歌山県を舞台に令和4年度全国高等学校総合体育大会（通称インターハイ）が開催されました。本県では、7月28日から8月20日にかけて、体操競技、卓球、ソフトテニス、ハンドボール、柔道、ボート、ウェイトリフティング及び空手道の8競技で熱戦が繰り広げられました。平成10年以来、24年ぶりのインターハイ開催で盛り上がりを見せた24日間に及ぶ本県8競技大会の様子を詳しくお伝えします。

## 【TOPIX①】 県勢選手が大躍進。 県民に夢と希望を届ける目覚ましい活躍！

今大会は3年ぶりとなる有観客開催とあって、地元の温かい応援の後押しを受けて、いずれも過去最高となる優勝14件、入賞72件を記録するなど、本県選手が目覚ましい活躍を見せてくれました。連日届けられた県勢選手の活躍のニュースは、後に続く愛媛の子供たちの夢や希望となり、今後の競技力向上に繋がるものと期待しています。

【ボート】 シングルスカル



川上 拓海 選手（今治北3年）  
県勢6年ぶりとなる優勝の瞬間

【ウェイトリフティング】 45kg 級



齊藤 朱音 選手（新居浜東1年）  
3種目完全制覇の偉業達成

【柔道】 個人 57kg 級



山下 明純 選手（宇和島東2年）  
同階級で県勢初の3位入賞

### 【愛媛県選手（チーム）の種目別の優勝・入賞数】

競技名	入賞	うち優勝	競技名	入賞	うち優勝
1 陸上競技	2	1	8 相撲	1	-
2 テニス	2	1	9 柔道	2	-
3 ボート	6	1	10 弓道	2	-
4 ボクシング	2	-	11 カヌー	1	-
5 レスリング	2	-	12 アーチェリー	2	-
6 ウェイトリフティング	17	3	13 なぎなた	5	1
7 自転車競技	27	7	14 登山	1	-
合計			72 14		

## 【TOPIX②】 3年ぶりの有観客。スポーツの魅力と醍醐味を余すことなく発信！

一昨年は中止、昨年は無観客開催を余儀なくされた本大会ですが、今回は3年ぶりに観客を受け入れての開催となりました。県内会場に詰めかけた延べ約3万4千人の観客の皆さんには、日本一の栄冠をかけて繰り広げられる全国最高峰のプレーを間近に体感し、コロナの憂いも払拭するスポーツの持つ魅力と醍醐味を存分に満喫いただきました。

また、かつてない厳しい環境を乗り越え、集大成の場に臨む選手たちにとっても、会場内に沸き起こる温かい拍手や熱い眼差しは大きな励みとなり、高校生スポーツの祭典にふさわしい末永く心に刻まれる最高の檜舞台になったと思います。

## 【TOPIX③】 地元高校生による愛媛らしい心温まる「おもてなし」

インターハイは、地元高校生にとっても大会を支える立場で参画する檜舞台としても定着しており、本県でも県内 68 校の代表生徒で組織する高校生活動推進委員会の委員を中心に、大会期間中、J R 各駅に配置した総合案内所や本県独自の企画として全 11 会場に設置した「愛顔おもてなしブース」で来県者に向けた歓迎活動を展開しました。



選手との愛媛に纏わるクイズ会



シトラスリボンの工作体験



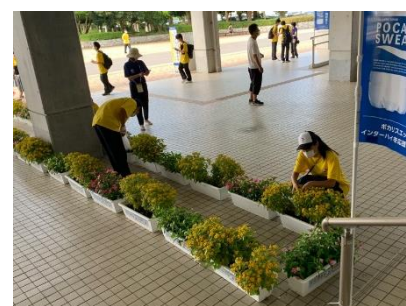
生徒自作パネルでの記念撮影



激励も兼ねた選手へのグッズ配布



来県者への会場案内(総合案内所)



歓迎プランターの手入・配置

生徒自らが企画した手作りマップによる会場案内や愛媛に纏わるクイズ会、シトラスリボンの工作体験や避暑対策に配慮したオリジナルうちわの配布など、愛媛らしい心温まる「おもてなし」は大変好評で、延べ2万人近い来県者との交流を通じて、生徒たちにとっても多くの感動や達成感を得られる貴重な機会になりました。

## 大会を終えて

長引くコロナ禍にあって、スポーツの日常を取り戻すには、まだまだ時間が必要ですが、久々に有観客で開催した今大会は、スポーツを「する」だけでなく「見る」「支える」といったスポーツの持つ多彩な魅力をあらためて体感いただける意義深い大会になりました。県教育委員会では、大会を通じて、本県生徒が実感した感動や達成感を着実に次世代に継承していくとともに、2年半にも及ぶコロナ禍での準備や大会本番で得た新たな知見やノウハウを県民共有の財産として、各種大会の運営等に活かしながら「スポーツ立県えひめ」の実現に向けた新たな歩みに繋げてまいります。



選手と交流を深める生徒たち



賑わいを取り戻した競技会場



関係者一丸となった大会づくり